

【『物流』に関する意見】	対応（案）	長期構想 該当ページ
AIターミナルによる効率化や自動車産業などと連携した様々な先進的取組が確実に行われる港であることをしっかりアピールし、愛知県及び周辺地域の産業に貢献していくことを強く打ち出す必要がある。	「長期構想の実現に向けた推進体制」の中で明記した。	P41
三河港が発展していくには、道路ネットワークと背後圏との連携・接続が必要であり、それを長期構想の中に位置付けておくことが非常に重要である。	「広域交通網を活かした背後圏の拡大」の中で明記した。	P30
世界または日本の中において三河港がどのような位置付けなのかということを、将来展望も含めてもう少し考える必要があると感じている。	「三河港の強み」の中で明記した。	P21
世界の中で競争力を持つためには、名古屋港や衣浦港などを含めた愛知県内の港をどのように連携させ世界に売り込んでいくかという視点が必要である。	近隣諸港との連携に対する課題や必要性を明記した。	P19、20
電気自動車や自動運転化なども踏まえた、今後20～30年後の自動車生産台数や輸出量の予測値も視野に入れる必要がある。	変化が激しい自動車産業の動向を踏まえ、完成自動車AIターミナルなどで柔軟に対応できるよう取組戦略に含まれているとの認識である。	P29
三遠南信自動車道の供用による経済効果を視野に入れる必要がある。	経済効果として三遠南信地域からの貨物需要を見込んでいる。	P30
三河港において農産物輸出に関するコールドチェーンを構築することで、この地域の活性化のみならずDXの推進にも繋がると考える。	物流に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P30
三河港は、三遠南信地域にとって海外との玄関口であり、国際交流・連携拠点であるため、双方を結ぶアクセス道路の整備が重要である。	物流に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P30
港の機能面では各地区の方向性が大体見えてきたと感じるが、それを結ぶ臨港道路が無いため一体化されていない。臨港道路及び背後へのアクセス道路の課題も議論し、港湾機能を十分に高めるよう検討してほしい。	広域道路ネットワークの整備状況を踏まえ、港湾計画において必要な臨港道路を位置付けていく。	P30
今後の人口減少・少子高齢化は避けられず、ドライバー不足は必ず迎える状況の中、三河港においてもモーダルシフトが活発に進むことを期待する。	物流に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P30
【『産業』に関する意見】	対応（案）	長期構想 該当ページ
愛知県の「ステーションAi」のようなスタートアップ支援拠点が、産業の集積する港エリアにあっても良いのではと思う。	東三河スタートアップ推進協議会と連携し、スタートアップ・エコシステムの形成を進める。	
目標3の取組戦略について、企業連携と誘致活動に関する記述を追加してほしい。	企業連携と誘致活動に関する記述を追記した。	P31
【『人流・交流』に関する意見】	対応（案）	長期構想 該当ページ
竹島周辺を対象にまちづくりを推進し、他地区とも有機的に連携し回遊性を向上させることで、三河港における人流・交流の役割を担っていけると考える。	地元自治体と協力し、必要な施策を港湾計画に位置付けていく。	
AIターミナルやカーボンニュートラルの整備などについても、その魅力を随時打ち出し特徴をきちんと示せれば、観光資源としてもとても良いものになる。	人流・交流に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P32
豊富な資源の連携により界限・ゾーンとして一般人に認識され、それらが役割分担し重層的に連携することで地域全体の価値を上げることが重要である。	人流・交流に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P32
ポテンシャル（魅力）の一番高いところで地域の代表するものを享受でき、立地や水辺を活用した「稼ぐ」ことのできる空間づくりが必要である。	人流・交流に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P32
コロナ禍の中、個人が購入するプレジャーボートの売れ行きが好調など、バブルと言っていくらい海周りが大変賑わっている。バブルはいずれ弾けると思うが、今回買われた船に再び来訪してもらえるように、ブランド価値を生む空間形成といったマリーナを核とした総合施設という構想は必要である。海から来て遊んでもらうという視点が重要であり、三河港の総合的な発展には不可欠である。	今後、詳細な検討を進めていく。	
【『環境』に関する意見】	対応（案）	長期構想 該当ページ
海がきれいになり過ぎて魚が育たないといった状況の中、豊かな海というものがどういう海なのかを考え直す必要がある。	豊かで多様な生物が息づき、人々が海の恵みを享受できるよう、三河湾の再生に向けた取組を進める。	
【『安全・防災』に関する意見】	対応（案）	長期構想 該当ページ
平時における港の情報発信のみならず、災害時における港の状況などについて、各地域毎ではなく港を核とした発信体制の強化が重要である。	安全・防災に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P35
発災後の瓦礫処理と港湾の復旧については港の基本・土台にもなると考える。	三河港BCP（事業継続計画）に基づいて、迅速な対応を行うことにより、発災後の早期機能回復を図る。	
津波による浸水において、避難計画や事業継続計画のみではなくハード面での強化も重要である。	安全・防災に対する将来像を実現するための取組戦略の中で明記した。	P35
船舶の航行安全に関して、ぎりぎりの安全ではなく、更に安全性を十分担保できるような港湾計画にしてほしい。	船舶の航行安全については関係機関とも調整を行いながら、港湾計画で詳細を検討していく。	

【『三河港全体』に関する意見】	対応（案）	長期構想 該当ページ
長期構想の目標と取組戦略を今後どう具体的な計画に落とし込んでいくのか、イメージを共有することが重要である。	長期構想にある三河港の基本理念、将来像を基に、今後の港湾計画に関する検討を進めていく。	
長期構想から港湾計画に落とし込んでいく際に、現状の課題を解決する施設計画をお願いしたい。		
動的に変化していく社会を見ていくために、30年先を考えつつ10年毎に見直していくことがこの長期構想を考える意味であり、これを皆様で共通認識したうえで、今後10年15年の具体的な計画をどう考えていくかが必要である。		
長期構想に位置付けられた取組内容を港湾計画につなげて、具体的に事業化できるよう支援していく。		
長期構想の基本理念に沿って、新たな価値を見出すような港湾計画を検討してほしい。		
長期構想を愛知県全体の目標として、港湾関係部局のみならず県庁部局横断的な取組戦略の推進をお願いしたい。	三河港の発展に向けて、関係者が一体となった推進体制の構築を検討していく。	
三河港の推進体制について、三河港振興会を強化し、選択と集中によるみなとづくりを期待する。		
国、県、市、経済界、港に関係する企業などが一体となって、三河港の一体的・戦略的・機動的な推進体制を構築できるよう願います。		
変化の激しいグローバル経済の中で、長期的な視点による整備が企業ニーズに間に合うのが今後の課題である。	時代の変化に柔軟に対応し、長期構想の取組施策を適切な時期に実施していく。	
時代に応じた社会情勢の変化に合わせて、長期構想の各目標が引き出しになって活用されていくことを願う。		
環境保全の時間軸と産業の時間軸、また産業の時間軸と港湾整備の時間軸を考えた時、長期構想における優先順位を検討する必要がある。		
新たな交通アクセスの強化が三河港の将来の発展に確実に繋がると考える。	今後、詳細な検討を進めていく。	
地区の役割が重複・分散すると、必然的に三河港の魅力・強みが半減すると感じられるため、各地区の役割や特徴がより分かり易くなれば良いのではと考える。	今後、詳細な検討を進めていく。	
新たな価値を生むには物と人の組み合わせが重要であり、三河港の様々な強みをバランス良く伸ばしていくことが大切である。	三河港の将来像の中で明記した。	P27